



ろうそくの灯りに包まれた庭園にて執り行われたあたたかな人前式

Welcome to my home

ようこそ
我が家へ

CASE 3 小池家

司会は家族や友人
みんなが作ってくれた結婚式



素材の風合いを生かしたナチュラルな衣裳は新婦様の手作り

音の葉「おふたりが音の葉を選ばれたきっかけを教えてください」
新郎「今まで何度か結婚式に参列した事があったんですが、正直、だいたいやるのが同じで形式ばったものと感じていました。そんな中、音の葉さんを訪れた時に結婚式に決まりはない。おふたりらしく自由でいいと言われたこと。今思えばそれがきっかけだったかもしれません。」

新婦「結婚式をやることになった時から衣裳は自分で作ろうと決めていたので、衣裳の持ち込みに制限が無いのもここでやりたいと思ったポイントでした。」
音の葉「ご両親への記念品も衣裳と同じ生地で作って仕立てられたぬいぐるみでした。」

新婦「そうですね。衣裳もそうなんですが、自分の得意な事が結婚式の演出だったり、みんなへのおもてなしの1つになればいいなと思い頑張って作りました！」

ご両親に贈られた
手作りのぬいぐるみ



新郎「ぬいぐるみの足の裏の刺繍は、感謝の気持ちを込めてふたりでひと針ひと針縫ったんです。当日、ぬいぐるみを手に涙ぐむ両親の姿を見た時は胸に迫るものがありましたね。」

音の葉「ろうそくの灯りに包まれる中、手作りされた衣裳を纏っての挙式はいかがでしたか」

新郎「打合せの時にプランナーさんから、挙式はあえてプロの司会者ではなく、ゲストの皆様に行役をお任せしてみたら？と言われたんです。最初はそんなことが可能なのかと思いました。(笑)」

新婦「みんな司会なんてできるのになってね。(笑)でも、実際に挙式が始まって、それぞれの兄弟、親戚、姪っ子達、友人と司会がリレーされていくに従って、なんというか、みんな

が結婚式を作りあげてくれている感じがして、それがアットホームでとても良かったです。」



音の葉「リレーといえば、ゲスト様が事前におふたりに宛てた手紙を書き、それを順々に読んでいくというレターリレーのセレモニーも行われましたね」

新婦「そうなんです。その読んでくれた手紙が最終的に一冊のレター



友人、ご兄弟へと繋がり、新婦のお母様へと手渡されるレターブック

ーブックになって私達の元に届けられ、そこへ私達もお互いへの約束の言葉を綴ったんです。」

新郎「兄弟や親からの手紙なんて今まで貰ったことがなくて、こんなこと思ってるんだと、予想していた以上に感動してしまいました。」

音の葉「披露宴ではご友人と同じテーブルに座り、カジュアルな雰囲気でお話をされていたのが印象的でした」

新郎「距離が近い分、気を使わず話せたのが良かったですね！」

新婦「結婚式で新郎新婦が友人の隣に座るってあまりないから最初は

友人達もびっくりしてたけど、ご飯に行った時みたいに気軽に話せて良かったです！」

新郎「披露宴中には、いとこや甥っ子姪っ子を中心となり歌とダンスを披露してくれました。親族中心の余興を友人も一緒になって楽しんでくれて、みんなのおかげで一体感のある披露宴になりました。」

音の葉「最後になりますが、おふたりにとって音の葉とはどんな場所でしょうか？」

新郎「私達だけじゃなく、家族やゲストの想いも大切にしてくれている場所ですね。」

新婦「スタッフも家族のようで、すごく心地良いです。」



結婚式と同じ秋の日にインタビューに答えてくださったおふたり

おふたりにとって音の葉とは？

「家族やゲストみんなを大切にしてくれる場所」

おかげで当日はとても温かい雰囲気でも過ごすことができました



2019年10月 挙式
小池 文哉 さん・静香 さん